

	内容別・課題別の課題分析 (知識、技能)	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	・3年生までに学習した漢字や4年生での既習の漢字を習得できていないため、文章中で正しく使うことに課題がある。 ・主述関係がねじれている文章になってしまうことが多い。 ・語彙が少なく、自分の考えを詳しく表現することに課題がある。	・新出漢字の学習では、黒板で筆順を確認したり熟語を集めたりしてより漢字に親しませる。習った漢字は使うように声を掛け、定着につなげる。 ・授業の中で、言葉の意味を全体で確認したり、意味調べをしたりして、叙述の言葉に着目しながらその効果について理解を深めさせる指導を行う。また、作文の学習活動の時間を設定し、主語述語の関係を考えながら作文したり友達の発表を聞いたりすることで、主語述語の正しい使い方に慣れさせる。 ・本に親しめるとともに、様子や感情を表す言葉に触れる機会を増やし、言葉の引き出しを増やしていく。	
社会	・生活経験の量に個人差があり、それが学習の中での基本的な用語理解の壁になっている。 ・資料の読み取り方に課題がある。	・身近な経験や家庭での生活を適宜振り返らせ、社会的事象が生活と密接に結び付いていることを実感させながら指導する。また、地名に興味をもてるよう、適宜地図帳を用いて学習に活用する。学習内容と共に、地図上での位置を感覚的に身に付ける。出てきた地名に印をし、後で見返した時に復習できるようにする。 ・視点を与えて資料の読み取りをする。また、様々な情報の中から、大切だと思う言葉やキーワードを使って、ノートにまとめられるようにする。児童によっては、調べた内容を口頭で説明させてから、文章にする手順を取らせる。	
算数	・九九が定着しておらず、わり算の筆算に課題がある児童がいる。 ・文章問題を理解して解くことが難しい児童がいる。文章問題を理解して解こうとしている児童でも、読み飛ばしや読み間違いがある。	・わり算の筆算ではかけ算が素地となるため、習熟度別クラスにおいて、児童の実態に応じて九九の復習を取り入れたり、A I型学習教材「キューピナ」やプリントを活用したりして、かけ算やわり算の問題に繰り返し取り組ませる。 ・文章問題に苦手意識のある児童には、問題文を声に出して読ませたり、求めるものに印をつけさせたりして、文章問題にふれる機会を増やす。また、イラストや図で可視化して文章を読み解きやすくする工夫を行う。文章問題を自ら解こうとしている児童には、見直しのやり方を教え、読み飛ばしや読み間違いを防ぐ指導を行う。	
理科	・実験や観察したことを定着させることに課題がある。	・観察をするときには、着眼点を明確にする。また、個人で観察したことをクラス全体で共有し、友達の意見も書くようにすることで多角的な視点をもつようにする。 ・実験をするときには、児童に目的意識をもたせる。そのために、児童の実体験と結びつけるような映像やエピソードを用いた導入をする。また、予想を経験や知識に基づいて立たせる。結果は、表や図でわかりやすく整理し、予想と結果を関係付けながら考察する活動を充実させる。	
音楽	・歌唱では、意欲的に声を出すことができるが、自然な声の出し方や声を合わせて歌うことに課題がみられる児童がいる。 ・器楽では、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりに気付き、どのように演奏するかについて思いをもち、表現する技能を身に付けられるとよい。 ・鑑賞では、感じたことと音楽を形づくっている要素との関わりについて気付いたり、豊かな言語表現をしたりできるとよい。	・少人数で歌う場面やペアで聴き合う場面を常時取り入れていく。どんな声で歌いたいかを考え、意見を共有し合う機会を設ける。 ・教師が2種類の演奏の仕方で演奏し、どちらが良いと思うかを児童が聴き比べ、聴く耳を育てるようにする。そして、良い音色や響きを出すにはどのような演奏の仕方がよいか考えたり全体で共有したりして、試す時間を確保する。 ・曲を聴いて感じたことや気付いたことを板書で分類し、なぜそう感じたのか音楽の要素と関わらせられるように問い返したりする。「音楽の感じを表すことば一覧」等を活用し、語彙を増やしていく。	
図工	・発想力に自信がない児童がいる。 ・扱いが難しい道具があるため、安全上の注意が必要である。	・児童の作品を授業の始めに提示し、頑張りを認めたり、イメージを共有したりする。周りの意欲を喚起するとともに児童のアイディアを価値付ける。 ・特に刃物の扱いなど、動画や板書を活用し、道具の安全な使い方をよく理解させる。ルールを確認し、徹底することで怪我を防ぐ。	
体育	・練習に取り組むが、課題となる技が習得できない児童がいる。	・技のカードの活用や場の工夫を行うことで、段階的に技能が習得できるようにし、その児童に合わせた運動目標に取り組めるようにする。 ・ペア/トリオ活動を取り入れることで、安心して自分のペースで学べるようにする。 ・学習の中で、友達や動画教材の手本の動きを確認したり、気付いた点を全体で共有したりしながら、動きのポイントを明確にする。	